

色や形の新たなよさに出会い、美しさの認識を更新する造形科授業

芦田 桃子

1 はじめに

本年度、シカゴ大学実験学校との国際交流の機会を得て、異文化・多言語の子どもという教室の外の〈他者〉と出会い、また抽象的な色や形の表現という教材の〈他者〉を深めることによって美の認識を更新する授業を構想した。その実現にあたって、子どもたちのもつ言葉やイメージと、色や形を双方向からつなぐ活動や既存の具体的な形にとらわれず、新しく作りだす創作活動を重視するようにした。

2 授業の構想

(1) 題材「ことばと思いを色と形に」～世界の友だちへ字のない手紙～

(2) 単元デザイン

①題材について

本題材は、電動糸のこぎりを使って木の板から新しい形をつくりだし、形や色の組み合わせを工夫した表現や鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を目指すものである。

特に、表現する主題の設定を通して、表したいことや表し方などについて自分の考えや思いを見つめ直したり、相手のことを想像したりしながら表す活動になるようにすることで、一人ひとりの豊かな思いに基づいた創造的な活動になるようにするとともに、表現に適した方法などを組み合わせたりすることができるようにする。また、異なる言語や文化を持つシカゴの子どもと作品交流を楽しむことを想定しながら、伝えたいメッセージや表したいイメージを見て伝わる色や形に表すことを目指して取り組むようにした。その表現方法を具象から抽象表現に近づけることで、色や形のよさや面白さに着目したり、追求したりする姿が増えるようにする。

②子どもの実態

抽象的な表現に対してはまだよさを実感できにくい様子が見られ、模倣する形がない場合に造形表現が広がりにくい姿も観られる。本題材を通して抽象的な表現のよさの認識を深めることで、色や形のよさや美しさの価値観を広げ、表したいことや表し方などについてより豊かに発想・構想することができるようにしたい。また、よさや美しさの認識が広がることで自分の好きなものや大切にしたいものが増えたり、他者

の好きなものや大切なものを受け入れたりする姿につなげたい。

③指導の工夫～オノマトペを使って形と出合う～

新しい〈他者〉との出合いを4つ設定し、計画的に位置付ける。

ア) 電動糸のこぎりとの出合い（デモンストレーション及び実践）

イ) シカゴの子どもたちとの出合い（紹介ビデオによる）

ウ) カンディンスキーによる抽象表現との出合い（本時）

エ) 自分や友だちがつくりだす形の再認識（作品鑑賞）

特に本時では、鑑賞作品の色や形の表現からこれまでにない表し方の面白さを感じられるようにするために、全体を構成する「部分」を形（作品）として提示する工夫を行う。一見何か分からない抽象的な形から想像を膨らませたり、表したいことを考えたりすることは、これまでの形の認識を広げ、よさを見つけることにつながると考える。また、児童には「抽象表現」という言葉ではなく、様々なオノマトペを使って形を見たりつくったりするように方向付け、抽象的な形と言葉から浮かぶイメージを結びつけていくことをねらう。

(3) 題材の目標

○ 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解するとともに、電動糸のこぎりを活用し、表したいことに合わせて組み合わせ方など表し方を工夫する。

【知識及び技能】

○ 抽象的な造形表現のよさや美しさを感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を深める。

【思考力・判断力・表現力等】

○ 主体的に形をつくりだしたり見立てたりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

(4) 題材計画 全 10 時間

題材モデル	学習内容			活動内容
〈他者〉との出 合い	用具の習得・表 現活動の見通し を持つ。	第 一 次	第 1 時	電動糸のこぎりの使い方を学ぶ。
			第 2 時	シカゴ実験学校の紹介ビデオを観る。
自己の感性を働 かせる。	形や色をつくり だす創造的活動 を行う。	第 二 次	第 1・2 時	電動糸のこぎりで直線や曲線を切って形をつくる。
〈他者〉との出 合い			第 3 時	カンディンスキーの作品を鑑賞する。 (本時)

色や形で表す。 試行錯誤する。			第 4 ～ 6 時	形の組み合わせを考えたり，彩色したりする。 「字のない手紙」となるよう，相手意識やメッセージを考えながらつくる。
意味づけ・価値 付け	作品鑑賞による 深化。	第 三 次	第 1 時	学級で鑑賞会をする。
自己更新			第 2 時	シカゴ実験学校の子どもと作品交流 をする。

(5) 本時の目標

○作品を鑑賞し，色や形について新しく気づいたりよさを広げたりすることができる。

(6) 提案問題

抽象的な造形表現との出会いやオノマトペを使った鑑賞交流は，これまでとは異なる「よさ」に気づき，自分なりの表し方を深めたり追求したりしようとする子どもの姿につながったか。

(7) 学習過程

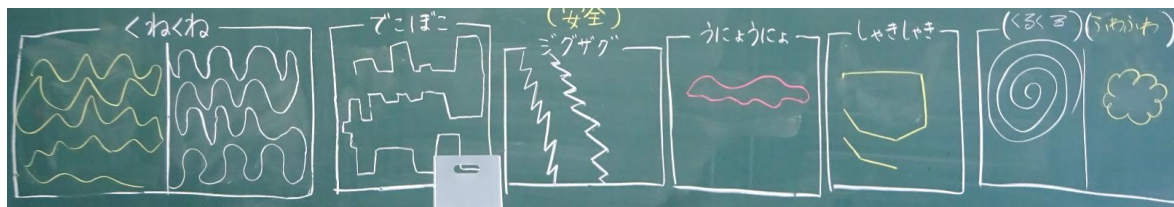
学 習 活 動	指 導 の 意 図 と 手 だ て	評価の観点と方法
1. 班ごとに作品（部分）を鑑賞する。	見えたものや心にうかんだことを話そう。 ○見えたもの（事実）と思ったこと（意見）を分けながら聞くことで，造形表現とその効果についてせまることができるようにする。 ・名前をつけてみましょう。 ○友だちとの交流で，一つの形に対し，複数の見方ができる形の良さを感じられるようにする。	ア ・発言内容
2. 作品の全体を鑑賞し，テーマを考えてみる。	○作品を構成するいくつかの形から表されるイメージを交流する。	
3. 自分が切った木片を見て，名前をつけたり，作品イメージをふくらませたりする。	切った形から，作品イメージをふくらませよう。 ○物の形以外に，オノマトペで表すことで，抽象表現の価値も認められるようにする。 ・この形からどんなことが思い浮かびますか ・この形を使って，どんな作品をつくってみたいですか。	ア ・発言内容 イ
①形の見方 ②作品の構想（色・形）		・活動の様子の観察
4. 本時の振り返りと次時の見通しを持つ。	○次時は，膨らませたイメージを元に，残りの木の板を電動糸のこぎりで切る。	・ワークシート

3 授業の実際

(1) 形をつくりだす創造的活動

本時の前2時間の授業では、直線や曲線とオノマトペをイメージでつなげ、描いてみたり（資料1）、糸鋸で切ってみたりするという活動を行った。

資料1 直線や曲線とオノマトペ



ここで、提案問題に関わる子どもの姿がいくつか見られた。

- ①直線や曲線を取り入れながら、楽しんで形をつくる姿
- ②つくった形を嬉しそうに並べて、次の形を想像する姿
- ③下書きをしたがり、ものの形をなぞって切ろうとする姿
- ④銃や剣、文字など、知っている形、使って遊びたいような形をつくる姿

オノマトペを使った形に限定したことは、児童にとって新しさや違和感となったことが分かる。上記①②は、初めてのことや抽象的な表現に意欲的に取り組む姿だが、③④は、抽象的な表現のよさが分からない、未知のものには手を出さない、失敗するかもしれないという心情が背景にあると考える。この時点ではまだ、本単元での〈他者〉に対してよさが更新されていない姿が見られていた。

(2) 新しい価値や感性に出合う鑑賞授業（本時）

本時では、糸鋸での形作りを中断し、カンディンスキー作品を使った鑑賞の時間を取り入れた。まず、全体で一つの形について鑑賞し、向きを変えてもよいことや、新しい見方を増やしていくこと、様々な感じ方が受容されることを体験させるようにした。その後、封筒に作品から抜き出した形を一つずつ入れ、グループごとに鑑賞させた。ここでは、形に注目させるために、作品を部分（パーツ）に切り分けたこと、それを封筒に入れて渡すことで、どんな形と出合えるかわくわくした気持ちを引き出すことを手立てとして講じた。そして、形に着目した後は形に作品名をつけることで、自分なりの感じ方を表せるようにした。

資料2：作品のパーツ



- ①提案問題の検証方法1：オノマトペを使った作品名をつけることを通して、形の面白さに着目したり、その交流を楽しんだりしているか。

検証1では、グループでの発言やパーツへつけた作品名、最後に各パーツが合わさって本来の一つの作品になった形を見て改めて作品名を考えた様子を参考とする。

資料3：グループ活動での児童の発言

児童の発言	背景
<ul style="list-style-type: none"> ・ 悲しいときの眉毛みたい ・ 鍋に入れたらすきな形 ・ 向き変えていいんだからね ・ めがねが似合う（形を擬人化して遊ぶ） 	形の見方を増やしている 形への愛着を深めている
<ul style="list-style-type: none"> ・ あー、分かったそういうことか ・ 確かに見えてきた ・ 見えた、見えた ・ 本当だ 	相手の見えたものを想像している 共感しようとしている
<ul style="list-style-type: none"> ・ でしょ？ 	共感が得られて嬉しい

資料4：形に付けた作品名

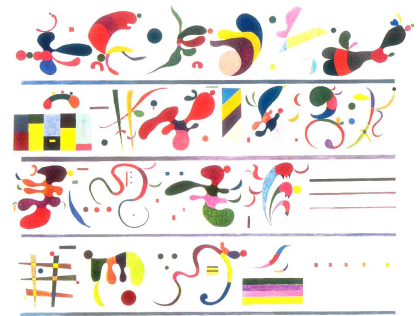
- ・ ふわふわの向かい合う天使
- ・ くねくね山脈に沈んだ夕日
- ・ ぐにゃぐにゃの新恐竜
- ・ まるまるアルマジロ



(全体作品)

資料5：作品全体を見てつけた作品名

- ・ おもちゃのパレード
- ・ 生き物の音楽会
- ・ 宇宙人からの手紙
- ・ 24世紀の世界
- ・ 音符パラダイス
- ・ バイキングメニュー
- ・ 花火大会
- ・ 夢のつまったおもちゃたち
- ・ 色々な個性を持ったたくさん種類のいるごちゃごちゃ動物園



児童の発言や作品名から、形の面白さに着目したり、その交流を楽しんだりしていることが分かる。また、「よく分からない形を楽しむ」「よさを見つける」「美しさの幅を広げる」といった姿を見取ることができ、抽象的な形への興味やそれらをよさとして受容・更新していると評価する。

②提案問題の検証方法2：次時からの創作活動で形や認識に変容が見られるか。

検証2では、本時の後の授業で形づくりの続きを行った際に、実際につくった形や認識に変容が見られるかを、児童のふり返りや実際の作品から見取ることとする。

資料6：ふり返りアンケート「形の見方について」

鑑賞授業前の形の見方	鑑賞授業後の形の見方
「ただデコボコしているとしか見なかった」が	「曲線の部分が自然の砂浜でデコボコしている部分が船着き場だと思った」に変わった
「一定の形にとらわれていた」が	「ぐにゃぐにゃな形などをいいなと思うようになった」に変わった
「小さくとげとげしたもの」が	「ちょっと大きくなっていろんな形がまざりあったもの」に変わった

「小さくてふわふわしている形」が	「くねくねしていて何か分からないようなもの、自由な形」に変わった
「決まっている形をつくろうとしていた」が	「いろいろな名前のない形を作った。だれもマネできないようなものを作った」に変わった
「一つの形にしか見えない」が	「いろんな形に見えるようになった」に変わった
「頭の中で作っていた」が	「あまり考えずにした」に変わった
「あまり考えずに作った」が	「頭の中で作った」に変わった

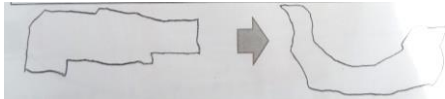
資料7：ふり返りアンケート「形について」

【オノマトペから線や形を思いついて、ふしぎな形をつくることを楽しめましたか。】全31人
 ふしぎな形を面白いと思えた(31人)・ふしぎな形のよさは分からなかった(1人※重複)
 【いろいろな形を組み合わせて、テーマのある一つの作品にしあげることはどうでしたか。】
 楽しんでできた(22人) 難しかったけどできた(17人) 思ったようにできなかった(1人※重複)

資料8：A児の作品の変遷

問：作品を鑑賞したことで、自分の形作りや考えがどう変化しましたか。

A：「形に合うもの」が「何も考えなかった形」に変化した



問：心や作品が変わるきっかけはどれでしたか。

- 鑑賞した作品
- 友だちの考え、見え方
- 自分の想像
- 先生の言葉、考え
- その他



作品名：動物の輪 Animal circle
 メッセージ：学校は楽しいですか。
 Do you enjoy school?

児童に与えられた視点についてふり返らせることで、自己認識の変化に自覚的になることを促したと考える。A児は、前時の活動の際、銃型の形しかつくり、これまでの認識を超えられない姿が見られたが、本時の後は柔軟な形が増え、形を見立てながらこれまでの自分にはない新しい作品を完成させることができた。

4 成果と課題

授業ではその後、各パーツから一つのテーマを自分で見つけたり、作品を通してシカゴの子どもと話したいことを考えたりした。さらに、作品をポストカードに印刷し、シカゴへ郵送、作品やメッセージへの返信が来るなどつながっている。また、10月には単元「墨のうた」で音楽科と共に授業を構想し、墨での抽象表現によって感じ方を表す活動を行ったが、本授業との関わりも意識して進めた。これらは題材ではなく、単元として有機的なまとまりを持ち、〈他者〉を楽しみ続ける有機的なカリキュラムとして位置付けることの意義を明確にした。